

2026年度 企画展のご案内

竹谷 展 『眼 歩く 2025』

4月7日(火)～6月7日(日)



2025年の1年間に、撮影し、試し焼きをした印画紙約1,800点を展示します。約200本の白黒フィルムで日本と台湾のあちこちを撮り歩きました。玉石混淆のモノクロームの海をご覧いただければと思います。9種類の古典印画法の作例も展示します。

碧南高等学校美術部第8回作品展 『眼差しで貫く』

6月13日(土)～7月26日(日)



何がすぎて、何がきらいか。
何が欲しくて何が許せないのか、自分に欠かせないものは一体何か。30人の高校生が、時にまっすぐ時になまめに、息のしやすい場所を探して、世界と向き合います。

碧南南中学校芸術部第1回作品展 『つながり・輝き展』

6月21日(日)～7月23日(木)



私達は一人ひとりが作品と向き合う時間を大切にしています。一人で取り組む時も、グループで活動する時も、私達にとってはかけがえのない一瞬です。その一瞬から生まれた今の私たちにしか描けない、今の私たちだからこそ創り出せる作品を見て頂きたいです。先輩から受け継ぎ、後輩へ繋ぐという気持ちと、作品に込めたキラキラとした輝きが皆さんの心に届きますように。

Q×A tandem：公花×原歩 2026展 『私たちの哲学対話』

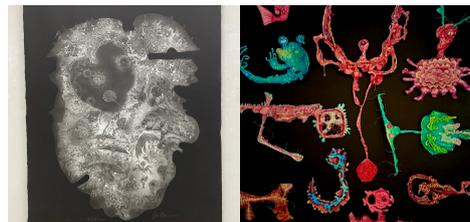
8月1日(土)～9月27日(日)



民族衣装メルフアで色鮮やかな世界に潜む闇を、優しく糸で縫う作品の公花。世間の歪さをチクッと刺すように、愛らしいブロンズたちと切り込む作品の原歩。異なる視点で「見えないもの」に触れる二人が、独自の世界を描き出す展覧会です。

水谷昇雅展 『水谷昇雅の眼差し 1984-2026』

10月4日(日)～11月29日(日)



1階の展示 水谷昇雅の眼差し。1984-2026「今に至る過程」過去の作品の1枚の板から掘り出した木彫作品を中心とした半立体彫刻作品や独創的で奇抜な世界観を表現します。その他にも半立体作品や版画作品を中心に過去の作品から現在プラスチックまでの作品を展示します。

2階の展示 眼差しの領域 見る人によっていろいろな視点の姿形が見えてくる標本箱になる様に、各ショーケースに展示します。

KAZUKI YANO展 『そこにいる世界』

12月6日(日)～1月24日(日)



「絵の中の立体表現」をテーマに、立体を鉛筆主体に描写し、そこに存在するような世界を描き続ける。幼少期よりカプトムシ・ハンミョウ・スパイダー・恐竜などを立体表現してきた。その後、アートを学び、立体表現のフィールドを平面表現にも拡大。本展では、“そこにいる”を研究する際に描いた鉛筆画や、光と影を表現する作品を展示。線や点で構成される架空の生物がそこに存在し、動き出すかのような世界を表現しています。

鳥居由花子・大野和子2人展 『追いかけてっ』

2月2日(火)～3月22日(月・祝)



約60年の歳月を隔てて奇しくも同じ絵描きとしての道を歩み、共に安城市東端町の絵画教室を営んだ祖母と孫娘の2人展です。生前いつも孫を思っていた祖母と、家業を継いで絵を描き続け、祖母が辿った道を追いかける孫娘の、異なる個性の共演をお楽しみください。